

## 企業リスクインフォ <2011 年度第 6 号>

### 福祉介護施設・事業所における危険予知訓練(KYT)の 効果的な活用

#### 1. はじめに

危険予知訓練(KYT)とは、中央労働災害防止協会が中心となって普及に努め、製造現場などで事故予防に大きな成果を上げている職員教育手法です。

#### <参考 1 >

危険予知訓練は、職場や作業の状況のなかにひそむ危険要因とそれが引き起こす現象を、職場や作業の状況を描いたイラストシートを使って、また、現場で実際に作業をさせたり、作業してみせたりしながら、小集団で話し合い、考え合い、分かり合って、危険のポイントや重点実施項目を指差唱和・指差呼称で確認して、行動する前に解決する訓練です。

危険予知訓練は、危険(キケン、Kiken)のK、予知(ヨチ、Yochi)のY、トレーニング(トレーニング、Training)のTをとって、KYTといいます。

(中央労働災害防止協会HPより引用)

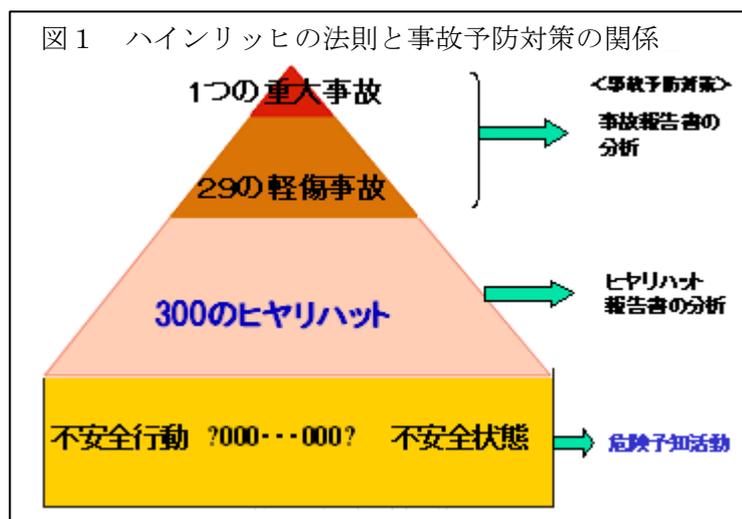
本稿では、福祉介護サービス提供にかかる事故から利用者の身を守るために、福祉介護施設・事業所の現場に応用した「福祉介護版KYT」について紹介します。

#### 2. 福祉介護施設・事業所における事故予防対策の中でのKYTの位置づけ

図1をご覧ください。ハインリッヒの法則(※)の考え方を福祉介護の現場に置き換えた上で、事故予防対策との関係を表した図です。

この図から「事故報告書」の分析は「発生した事故」、「ヒヤリハット報告書」の分析は「発生したヒヤリハット」に着目した取組みだと思えることができます。

一方、KYTはヒヤリハットの更に背後にある無数の「不安全行動」「不安全状態」に着目した取組みだといえます。



(※) ハインリッヒの法則

1つの重大事故の背景には29件の軽微な事故があり、更にその背後には300件の異常(ヒヤリハット)があるという労働災害に関する経験則。

つまり前者は「発生した事実」や「発生しかけた事実」を活用して事故の再発防止を図る取組みであり、後者は無数にある不安全行動や不安全状態に「自ら気づき」取り除くことで事故の発生を未然に防止する取組みだといえます。後者について言い換えるなら「危険に気づく能力（気づきの感性）」を利用して事故を予防する取組みだといえることができます。

### 3. KYTの効果

前述の通り、KYTは危険に気づく能力（気づきの感性）を活用した事故防止の取組みです。

KYTを通して職員の「何かおかしい」「危ないかもしれない」といった危険を予知する能力が高まることで、利用者の事故を未然に防ぐ効果が期待されます。

また詳しくは後述しますが、KYTはグループでディスカッションを通して行う取組みですので、職員間のコミュニケーションが活発化されるといえる効果も期待されます。

<図2> KYTイラスト例



### 4. KYTの進め方

KYTはイラスト（図2参照）を見ながら、グループ（5～6人が目安）で意見を出し合って進めます。ここでは、効果的なKYTの進め方である「KYT基礎4ラウンド法」を紹介します（参考2参照）。

第1ラウンドではイラストから想定される危険を多く出し合い、第2ラウンドでは危険度の高い内容を絞り込みます。第3ラウンドでは、絞り込んだ危険に対する対策を出し合い、最終第4ラウンドで出し合った対策についても絞り込み、グループの行動目標を定めます。

この方法を用いることで、簡易的ではありますが、事故防止策の策定プロセスを体験し、かつ危険に対する気づきの感性を高めることができます。

<参考2> KYTの進め方

■小集団活動としてのKYT  
■イラストシートの状況から話し合いを進める

**KYT基礎4ラウンド法**

- 1R イラストから危険を出し合う
- 2R 危険度の高い内容を絞り込む
- 3R 絞り込んだ内容の対策を出し合う
- 4R 出し合った対策を絞り込み、グループ行動目標を定める

### 5. KYTを実施する上での注意点

効果的なKYTを実施するために、グループでディスカッションを行う上での注意点をいくつかまとめます。

<参考3> KYT記入例

00	No	危険要因と想定される事故
0	1	イスに背もたれがないので、バランスを崩して後ろに倒れる
0	2	アルミのイスが軽いので、イスごと倒れて全身を打つ
0	3	足元に石鹸があるので、立ち上がった瞬間みつけて転倒する
	4	洗い場が濡れているので、滑って転倒する
0	*	対応策を記入
1	*	(1) 背もたれつきのイスを使う
		(2) 壁を背にしてイスを置く
		(3) ウレタンのマットを置く
3	*	(1) 石鹸は、石鹸箱に必ず戻す
		(2) 洗剤位置を壁の側にし、手すりを作る
		(3) 泡が落ちるよう洗い流す
<b>グループ行動目標</b>		
利用者の身体を洗うときは背もたれつきのイスを使い、石鹸はその都度石鹸箱に戻そう！		

### ①「間違い探し」ではない

イラストの中に問題点がいくつあるか（おかしな箇所に○を付けること）、についてディスカッションをすることが目的ではありません。イラストを見て思い浮かぶ「危険」や「事故」について意見を出し合い、危険の本質について理解を深めることが目的です。

### ②答えは限りなし

想像力を働かせれば、危険は無数に存在しているといえます。そのため「正解」はありませんし、言い換えれば「正解」は無数にあるといえます。重要なのはグループ内で積極的に意見を出し合い、「特に危険と思われるもの」、「見落としてしまいそうなもの」などをグループで話し合うことです。

### ③場面設定の説明は最小限

図2をご覧ください。イラストの場面説明は最小限です。なぜなら「もし真ん中の利用者が急に立ち上がったら危ないね」といったように、登場人物や器具・設備面などの状況に関しても、深く踏み込んで話し合うことが大切だからです。

## 6. 最後に

多くの福祉介護施設・事業所ではすでにリスクマネジメントの取組みが行われているかと思います。本稿でご紹介したKYTはそうした取組みと上手く組合せて実施することで、より高いリスクマネジメントの効果を得ることができます。安心・安全な福祉介護サービスを利用者に提供するために、KYTをご活用いただければ幸いです。

#### <参考文献>

- ・『かんたん！福祉施設のリスクマネジメント 80のポイント』  
砂川 直樹 佐藤 崇 著 筒井書房 出版
- ・『福祉施設における危険予知訓練（KYT）簡単ガイド』  
古澤 章良 遠山 敏 佐藤 彰俊 砂川 直樹 著 筒井書房 出版

以 上

（文責：コンサルティング第一部 ERMグループ 主任コンサルタント 松岡 伸輔）

株式会社インターリスク総研は、MS&AD インシュアランスグループに属する、リスクマネジメント専門のコンサルティング会社です。ERMのコンサルティングに関するお問い合わせ・お申込み等は、下記の弊社お問い合わせ先、または、お近くのあいおいニッセイ同和損保、三井住友海上の各社営業担当までお気軽にお寄せ下さい。

お問い合わせ先

（株）インターリスク総研 コンサルティング第一部

TEL.03-5296-8914 <http://www.irric.co.jp/>

#### **ISO31000準拠！ ERM（全社リスク管理）コンサルティング**

企業価値向上に資する全体最適の観点から、企業を取り巻く様々なリスクを全社的に管理するために、貴社の実状に即した効果的・効率的な体制づくりを支援します。既に体制構築されている場合の実効性を高めるための取組み推進や、各種個別課題解決のご支援も可能です。

ERMコンサルティングはISO31000に準拠したメニューを活用・応用して実施します。

不許複製／Copyright 株式会社インターリスク総研 2012